

DEJIMA BASE (長崎県長崎市)

愛されるためのきっかけづくり

~魅力ある地域は、地域を愛する人がつくる~

DEJIMA BASE 代表

えぐち ただひろ
江口 忠宏



1. 活動エリアの概要

DEJIMABASE が活動する出島エリアは長崎県南部、長崎市の中心市街地に位置する、鎖国で有名な出島の周辺のエリアです。特に、2017 年に出島の前に整備された、一見公園に見えない、広い道路のような空間、「出島表門橋公園」を中心に活動しています。本エリアは、年間 50 万人を超える主要観光施設の出島の周辺ですが、市民にとっては、観光客が行く場所との認識が強く、数年前に県庁が移転してからは、人があまり訪れないエリアになっています。また、観光客も、数多くある観光地を梯子することが多く、ゆっくり訪れない場所となっています。



広い道路に見える表門橋公園

2. 活動開始の動機

長崎市中心部には、グラバー園、出島、大浦天主堂、眼鏡橋など、他のエリアが羨ましがらうくらいの名だたる歴史資源(観光地)がありますが、市民にとって、悪い意味で歴史が日常になりすぎており、これらの場所にあまり関心がない状況でした。そのような中、2014 年に始まった『出島表門橋架橋事業』の設計チームとして、出島復元整備事業に僕たちは関わることになりました。事業が進む中で、改めて、市民の事業への興味のなさを感じ、更には出島表門橋架橋への反対運動が起こりました。このまま橋が完成すると、愛されない場所になると危機感を覚えました。

この場所が愛されるためには、橋の架橋を契機に、市民が出島エリアに関心、愛着を持ち、エリアの価値や魅力を再認識することが必要だと考え、表門橋の設計メンバーの有志で「DEJIMABASE」を立ち上げ、「愛される場所になるためのきっかけづくり」を始めました。



復元が進む出島和蘭商館跡

3. 活動の特徴

DEJIMABASE の活動の大きな特徴は、①誰にも頼まれていない「任意活動」であること、②期限と目標のない「継続活動」であること、③住民主体ではなく、「場所を愛する人の活動」であるという3点です。「エリア内外問わず、多くの人とその地域を愛してくれれば、自然に魅力ある地域がつくられていく」。これが僕らの考える地域づくりであり、継続性と頻度を意識しながら活動しています。

4. 活動内容

エリアに「愛を生む」きっかけづくりとして、①出島表門橋を知ってもらう、事業のファンをつくる『出島表門橋のPR』、②出島を意識してもらう為の『SNSによる情報発信』、③圧倒的な愛着を生む、出島表門橋を雑巾で拭く活動の『はしふき』、④多くの人プレイヤー、多くの人の訪れるきっかけづくりの『表門橋公園活用サポート』の4つの活動を行っています。

①出島表門橋のPR

出島表門橋が架かるまでの期間、出島復元整備事業に「DEJIMAAGAIN」という親しみやすいキャッチコピー、ロゴ、出島ポーズを作成しPRをはじめました。様々な企画をしましたが、「場所をつくる人の顔が見えるよう、設計者と会える機会をつくる」ことに特に力をいれました。



設計者と会える様々な企画

また、仮囲いや架橋イベントなど、市民を巻き込み、関心を持たせる活動も行いました。完成後は、大きなPR活動はしていませんが、橋を愛する人がそれぞれ、魅力を伝える活動を続けてくれています。



市民に関心を持たせる活動

②SNSによる情報発信

DEJIMABASE では、出島の魅力を知ってもらうために3つのSNSを活用しています。情報発信はもちろん、多くの人達が「出島」を意識し、自然に気になる場所に変わっていくことを期待して、毎日、定時に更新をしています。



毎日更新しているSNS

③はしふき

「はしふき」は名前の通り、出島表門橋を雑巾で拭く活動です。第2、第4月曜日の月2回、雨天決行、参加表明不要、手ぶらで参加、遅れてきても、早く帰ってもOK、拭かずにおしゃべりだけでもOK、「拭かないより、拭いた方がいい」という緩い想いで活動しています。不思議なことに、一度、「はしふき」体験すると、この場所が「じぶんごと」の風景に変わっていきます。



じぶんごとの「はしふき」

これまで、開始から3年半、コロナ過でも中止することなく、88回開催しています。平均15名の方が参加してくれてますが、毎回新規参加者がいることは面白いところです。また、毎回参加者が入れ替わり、常連メンバーが少ないところも特徴です。定期的で開催される「はしふき」は清掃の場だけでなく、エリアを愛する人々が集える場、エリアの魅力を発信する場になっています。また、最近では、愛知県の桜城橋でも「はしふき」が始まるなど、県外にも広がり始めています。

④表門橋公園サポート

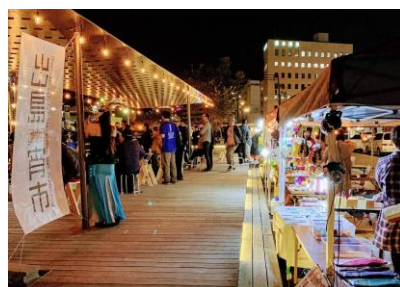
出島表門橋公園が完成してから2年近く、認知度も低く、活用されてこ

なかった為、令和元年度に長崎市と協働して、利活用の仕組みを構築し、公園利用者の発掘や公園利用のサポート（企画立案の補助、許可申請代行、物品の無料貸出）を始めました。DEJIMABASEが主体となって企画を実現することも可能でしたが、様々な主催者となり、責任を持って公園を活用することが、多くの人の愛着を生むきっかけになるため、サポート役に徹することとしました。



椅子・音響などの物品の貸し出し

また、実施される企画は、出島という場所でやる意味を考える為、「出島とのストーリー」を持つことを唯一のルールにするとともに、市民の苦手な部分をサポートし参加のハードルを下げることで、実現頻度、継続性を高めています。初年度は55の企画を実施し、協働事業が終わった次年度以降も、新型コロナの影響を受けつつも、様々な企画が継続され、新規イベントも立ち上がるなど、公園活用に広がりを見せています。このようなサポートを行うことで、多くの人達が継続して企画をやってくれるようになり、様々な人が公園を使ってくれることで、僕らだけでは広げることのできない方向に、この場所の魅力が伝わり始めました。また、ナイトマーケットなどの参加しやすいイベントが定期開催されることで、公園の認知度が高まるとともに、イベント時、史跡を前に過ごす贅沢な時間が市民に出島の存在を再認識させてくれています。



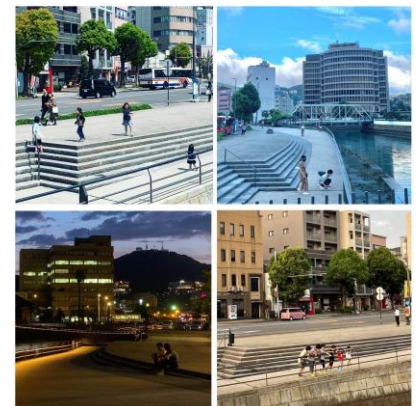
定期的で開催される「出島宵市」



史跡を前に過ごす贅沢な時間

5. 活動による変化

活動を始めて約5年、愛されるための活動を続け、人々が定期的集まる機会をつくり続けたことで、色んな人同士が地域を語る機会も増え、公園の魅力に気づいた人々が、日常生活の中で利用してくれるようになりました。また、活動を通じて行政との強い信頼関係も生まれ、圧倒的なスピード感で様々な活動が実施されるようになり、長崎市内で最も活用されている公園になりました。出島エリアも、表門橋架橋後に個性溢れる店舗が数多くオープンし、以前からあるお店と合わせ、より魅力あるエリアになってきています。



日常生活で利用され始めた公園

6. 今後の展望

活動を初めてまだ5年足らず、未だ長崎市民で出島表門橋を渡ったことのない人がまだ数多くいるので、引き続き圧倒的な頻度と継続性で愛されるきっかけを作り続けていきたいと思えます。また、出島の対面では、エリアの活性化に大きな影響を与える県庁舎跡地の整備が動き始めており、県庁舎跡地の活用にも少しずつ関わりながら出島エリアを盛り上げていきたいなと思っています。それでは、第2、4月曜日、「はしふき」の日に、出島表門橋でお待ちしております。